9/30 Fri.2016
NODE vol.11
kanayama machidukuri kawaraban

金山地区のまちづくりを語る会 が、
金山のまちづくりに関わる皆さんにとっての
「交流や情報の結節点」でありたい。
次々と新たな活動が生まれるような、
「創造力の結節点」といえる場でありたい。
そんな願いを込めて、本誌の名前を
『NODE 【結節】』としました。

8 月 31 日に開催した第 9 回の「語る会」は、「金山を舞台にした映画づくり」と題して、金山を舞台に撮られた短編映画の 4 本の上映会とともに、中部大学の服部敦教授をモデレーターに「金山」をテーマとしたトークセッションを開催しました。

＜内容＞

Ⅰ「3 日間＋α でつくる
　ショートムービーワークショップ」の紹介　服部氏
Ⅱ 作品上映（WHO AM　I？／日曜日のことづけ）
Ⅲ トークセッション「映画制作から見た金山のまち」
Ⅳ 作品上映（金山で待ってて／キミの声）

映画制作に至る経過を皆さんに報告します。

3 日間という短期間で映画を造るというワークショップは、シネマスコーレの木俣純治氏が「映画を観るだけではなく、つくる楽しさを味わってもらいたい」と以前から実施していました。デンマークでは映画制作教育が盛んで拠点もできています。今回開催されたワークショップは、そこで行われているものを木俣氏流にアレンジしたものです。

このワークショップのシステムを、服部氏が大学の都市建設工学科の授業「都市情報化実習」の中に取り入れました。「まちづくり」と「映画づくり」を合体させたのが今回のワークショップで、「まち」を観察し、知ることから映画づくりは出発します。

「映画づくりとまちづくり？」とお思いかもしれませんが、服部氏曰く「映画づくりのプロセスとまちづくりのプロセスは共通するものがある。」のだそうです。

その共通点とは、

① 空間を魅力的に切り取ることが重要であること。
② 多くの人々の共感を得るストーリーづくりが重要であること。
③ 多様な人々が有機的に連携・協力できる組織運営が重要であること。

確かに共通する点だと思います。

特定の「まち」を舞台に、短期間で短編映画を制作するワークショップは今年で 5 回目です。この映画はドキュメンタリーではなくストーリー映画であること、また、参加者には映画制作の経験は問いません。

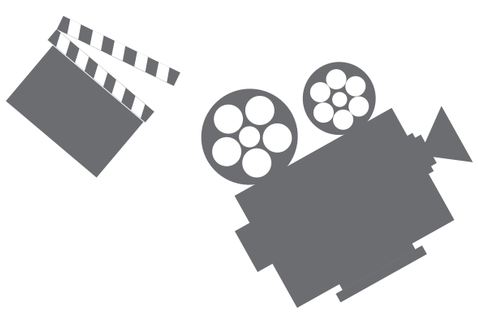
今回、我々「語る会」は、この服部氏の「授業」とコラボレーションし、「金山」を舞台に映画を撮ってもらうことにしました。

金山とはあまり関係のない学生たちが、金山をどのように捉え映画に反映させるかを観るのも楽しみでしたし、撮影を通して金山という「まち」の魅力や資源の再発見、再認識という点で効果があるのではないかと考えたからです。

昨今、聖地巡礼といってアニメ映画の舞台となった飛騨に多くの人たちが訪れています。映画のワンシーンとして描かれた場所に多くのファンが詰めかけているのです。ストーリーと相まって「まち」をより魅力的に見せているのでしょう。私たちには見慣れた風景も思いがけない形で表現されるという楽しさも期待していました。

学生の夏休みに合わせて開催されたワークショップは、いずれの日も好天に恵まれ･･･それは「暑い」、いや「熱気」に溢れたワークショップになりました。

「待ち合わせ」というテーマに着想を得て、ストーリーを考え、金山を舞台に 10 分程度の短編映画を制作しました。参加の学生たちは「映画」には全くの素人です。映画制作経験者が講師（アドバイザー）として指導しましたが、企画・シナリオ制作・撮影・出演・編集など全てを自分たちでこなしました。



あと、上映会の途中では、今回講師を務められた皆さんにより、撮影を通して感じた金山の印象や魅力についてのトークセッションが開催されましたので、コメントの概略を紹介します。

○木俣氏（シネマスコーレ支配人）
　今回駅構内で撮影できたのはとても良かった。他ではなかなか難しいこと。アスナル金山の屋上からも撮影したり、地元の協力体制のお陰で色々な場所で撮影でき、作品に広がりが出すことができた。

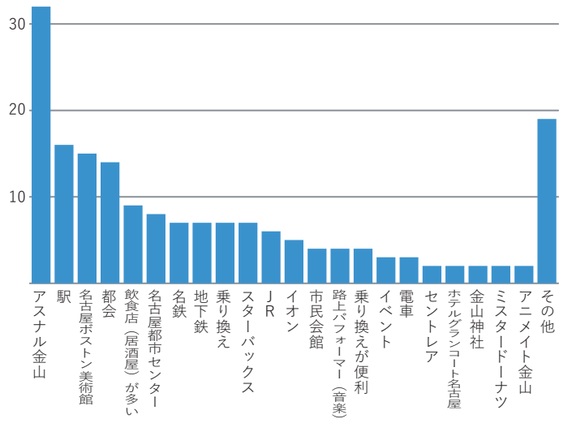
○佐藤氏（金城学院大学教授）
　存在は知っていたが、実際に行ってみて、金山神社という素晴らしい場所を知ることができて良かった。

○伊藤氏
　金山という先進的なまちのすぐ近く（街のなか）に神社や公園があるなど、まちに奥行を感じた。

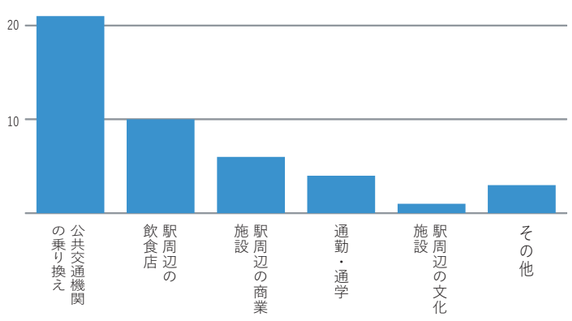
○服部氏（中部大学教授）
　アスナル金山の屋上もそうだが、歩道橋から撮影している班もあり、街の空間を立体的に捉えることができた。
　学生たちも、「まち」を歩き、知ることで、魅力を再発見したのではないかと思う。

　実際に制作に参加した学生たちはどうでしょう？
　ワークショップ初日と最終日にアンケートが実施されましたので、その結果も簡単にご紹介します。

○初日のアンケート
Q『金山』と聞いて思いつく言葉を 5 つ書いてください。



Q 普段『金山』をどのように利用していますか？



　最終日に取られたアンケートでは、ワークショップを通して「金山」の印象に変化が見て取れました。
＊ただの通過点だったが魅力を知ることができた。
＊以前は駅周辺しか見ていなかったが、ワークショップを通して「魅力あるまち」だと思った。
＊アスナルしか印象になかったが、駅周辺にもたくさん魅力的な場所があった。
＊もっと色々な所に足を運んでみようと思った。
＊駅周辺のガヤガヤした印象しかなかったが、少し歩けば生活感のある街並みが現れてくることがわかった。
＊結構栄えていて、明るいまちだと思った。
＊金山について何も知らなかったが少しだけわかった。
＊意外とロケ地にできる場所が多かった。

　初日のアンケートでは「アスナル金山」や「鉄道／駅」と答えた学生が多く、周辺の認知度は低い印象だったのが、まちの印象とともに、周辺を含めた認知が広がっており、このワークショップが「新たな発見」の機会になったことがわかります。
　今後はますます「単なる乗り換え」ではなく「目的地」として利用されるよう、駅を出て歩き回りたくなるような魅力の強化、そして情報の発信について考えていかなくてはいけないと感じました。

　以上で報告を終わります。
　今回ワークショップに参加した学生諸君には、極めて過酷な環境（!? 本当に暑かったです。）のなか、熱意を持って取り組んでくれて、敬意と感謝の意を表します。
　また、今回の撮影には商店街の皆さん、名鉄産業さん始め地元の多くの皆様にご協力いただきました。改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

編集後記

最初は初対面で、グループ内のコミュニケーションもぎこちなさが目立っていましたが、日を追うごとに一体感が生まれてくるのが傍目にも明らかで、ラッシュ上映ではエンドロールが流れてくると、（不完全であるにも関わらず）何となく胸にジンとくるものがありました。
映画は観ていただくのが一番です。名古屋都市センター 11 階ホールで 10 月 10 日（祝）まで上映しています（11:00 ／ 14:00）。
また You Tube にもアップされていますので、ぜひご覧ください。

ユーチューブ　中部大学　ショートムービー　検索

今回のプログラムについての詳細は以下の通りです。

「3 日間＋α でつくる
　ショートムービーワークショップ 2016
　　～金山を舞台にした映画づくり～」

○開催日　7 月 24 日、8 月 5,6,7 日
○講師等　木俣 哲氏／木俣 純治氏／伊藤 成人氏／高田 眞幸氏／宇佐美 すみれ氏／岡本 昌司氏
○企画等　中部大学（服部 敦教授）／金城学院大学（佐藤 久美教授）／名古屋まちづくり公社共同企画
○協　力　シネマスコーレ
○参加者　中部大学・金城学院大学・名古屋工業大学・椙山女学園大学の学生たち　41 名
○作　品　作品 1「WHO AM I？」（監督：河瀬祥子）
　　作品 2「日曜日のことづけ」（長谷川南美）
　　作品 3「金山で待ってて」（杉浦嵩人）
　　作品 4「キミの声」（服部 茜）

　上映会では、各グループの参加者から映画制作に関して、次のようなコメントが聞かれました。

作品 1 監督：知らない人との待ち合わせを描きたかった。
作品 2 監督：いつも同じ場所にいる知らない人との出会いを表現した。
作品 3 主演男優：観ている映画のようにはできなかった。
（講師）：爽やかで明るいチームのイメージに合った物語に仕上がっていた。
作品 4 助監督：監督が 2 日目に来られないというアクシデントがあった。監督のイメージを推し量りながら撮った。

　各グループ試行錯誤しながらも、協力し合い、そして楽しみながら制作に取り組んでくれたように思います。
　また、41 名の学生が、この金山というまちを知ると同時に、この場所でひと夏の思い出を作ってくれて本当に良かったと思います。
　あと、（大人たちの遊び心で）急遽最優秀作品賞等を決め、表彰することにしました。作品賞等は、上映会に参加してくれたメンバーの投票により決定されました。
　最優秀作品賞：作品 4　「キミの声」

2016.7.24(sun)

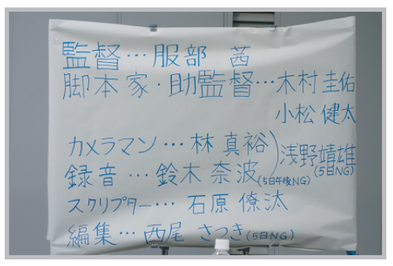
ガイダンス
ワークショップの進め方について説明を受けます。

金山神社

古沢公園

アスナル金山（屋上）

シナリオ決定／配役・制作スタッフ決定
各グループごとで事前に与えられたテーマ（待ち合わせ）に沿ったシナリオを各自プレゼンし、投票により決定します。
採用されたシナリオ決定者が監督を務めます。その他の制作スタッフ、キャストを話合いで決めていきます。



ロケハン
金山各所を廻り、撮影場所を決めます。
講師（服部氏）が予め男女のバランス等を考慮し 1 グループ約 10 名（×4 グループ）で班編成をしておきます。

2016.8.5(fri) /6(sat)/7(sun)

機材取扱い説明
カメラ、録音等決められた役割に応じて講師（アドバイザー）から機器の取扱いについて説明を受けます。また、制作に必要な小道具や衣装についてもチームで相談しながら決めていきます。

μプラットさんの店内で

偶然居合わせた子どもも出演

熱演 !!

撮影
監督を中心に協力しシナリオに沿った台本を制作します。そして、読み合わせをした後に、いざ！外に出て撮影開始です。
撮影は、原則ストーリーの進行に沿って、また、カメラは固定したままで撮影します。
（商店街の皆さん、μプラット（名鉄産業）の皆さん、ご協力ありがとうございました !!）

2016.8.7(sun)

撮影データの確認／編集
監督の指示でシーンをカットしながら 1 本の作品に仕上げていきます。
また、タイトルバックや音源、エンドロールを入れて完成させます。

2016.8.31(wed)

上映会
完成した作品を「語る会」の皆さんに披露しました。

懇親会
「語る会」メンバーと監督、俳優たちと懇親を深めました。

アカデミー賞 (!?) 決定 !!
上映会参加者の投票により作品賞、主演男優賞、主演女優賞、特別賞を表彰しました。